

鹿児島の昆虫 73

「昆虫食」

昆虫を食べる

しばしば、タヌキの糞にきらきらとしたコガネムシ類の翅が混じっているのを見ます。このようにタヌキやキツネ、チンパンジー（霊長類）などの雑食性の動物は、昆虫を大いに利用しています。また、アリクイやセンザンコウなどのように昆虫を専門に食べる動物もいます。



オオミツバチの巣(タイ)

一説には、シジュウカラ1羽が1年間に消費する昆虫は、およそ12万5千匹ともいわれます。このように様々な動物に利用されている昆虫は、動物にとって高栄養の食べ物であると同時に、地上の生物で圧倒的に種数を誇り、繁栄している生き物です。今、人間も近い将来来るべき食料危機を克服するために、この昆虫の恩恵にあずかろうと注目しています。

鹿児島の昆虫食

鹿児島の人々は昆虫食とどのように関わってきたのでしょうか。北薩や伊佐、川辺などで昆虫食の経験について聞き取り取材をしました。多くはありませんが、「地バチ」（おそらくクロスズメバチかオオスズメバチ）という地中に巣をつくるハチの幼虫を食べる話や田でイナゴを採って食べた話などをうかがいました。鹿児島にも身近な昆虫食があったことが分かります。

私もハチ駆除業者さんからスズメバチの幼

昆虫担当 中峯敦子

虫の炒め煮をいただいたことがあります。幼虫には甘みとうまみがありクリーミーな味に驚きました。



ハネナガイナゴ

昆虫を食べた経験を語る方々は、昆虫でおなかいっぱいになろうとしたわけではなく、その自然で素朴な味わいを楽しまれている印象を受けます。

ベスト3「ハチ、イナゴ、カイコ」



カイコ(成虫)

全国的に昆虫食への利用率の高い昆虫ベスト3は、前出のハチ（ハチの子）、イナゴ類、カイコでした。特にイナゴやカイコは日本で盛んな稲作や養蚕と密接にかかわってきた昆虫です。身近で、かつ大量に手に入ったことなどから、食と結びついたのでしょう。

昆虫食を通して、伝統的食文化と未来の食の在り方について考える、これまでと違った視点の企画展になることを期待します。